

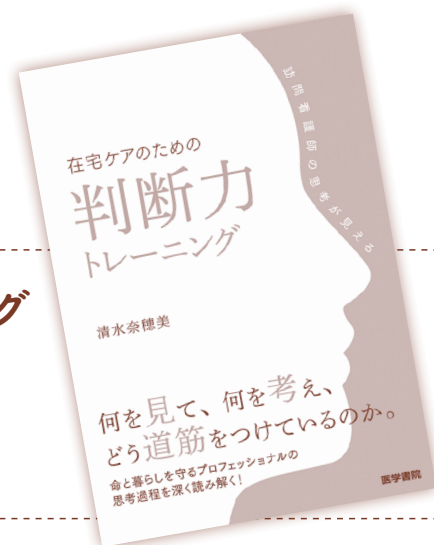
Book Review

評者：川村佐和子 東京都医学総合研究所客員研究員

在宅ケアのための判断力トレーニング 訪問看護師の思考が見える

著：清水奈穂美／発行：医学書院

定価：2200円（本体2000円＋税10%）



在宅ケアのための判断力を強化する書籍

先日、看護師は特定行為研修制度によって、ミニドクターになるのではないかとという質問を受けました。その看護師の意見では、2015年に保健師助産師看護師法第37条が改正され、創設された特定行為研修制度によって、さらに医学知識と技術を学修することになり、看護師は医学に傾倒し、本来の看護を忘れてしまうのではないかとこのようです。このような疑問を抱いて、看護師は、あらためて看護学や看護業務の本質を考え直しているようです。

この本の構成は、1. 訪問看護師の思考プロセス、2. 判断力を鍛える方法、3. 自律的な学びを支えるもの、となっており、訪問看護師が行う看護判断についての著書としては大変新しい書籍です。また、この本の特徴は、単に読んで終わりではなく、基本を読み終わった後に、自己トレーニングでそれを身につけるように導くというところにあります。

著者は看護判断を「医学的根拠に基づき推論する予測的判断と対話に基づく価値判断をすり合わせ、療養者の思いを多職種連携の中心に置き、その時の状況、その場にあった判断を導きます」と説明し、事例を用いて実践的に医学と看護学を統合して判断する考え方を示しています。

自己トレーニングは、まず、看護判断と「訪問看護師の判断を支える4つの力と最善解を導く意思決定の

共有を具体的に解き明かす」考え方を理解します。その後、事例と事例に関する質問が提示され、それに読者が回答する方式によって、自己トレーニングを容易にできるように書かれています。

さらに、「在宅ケアの現場で判断に悩んだときには、ぜひこの本を手にとっていただければと思います」と記載し、看護やその裏打ちを成す看護学は、医学を学んだから失われてしまうような薄いものではないと主張し、実践で困ったときには看護学に戻ってくれば、良い解に出合えると励ましてくれます。

この本は訪問看護師を対象に書かれていますが、医療施設内で働いている看護師にも通ずる判断法や考え方が書かれています。これから訪問看護師として働いてみたいと考えている方には、入門書になることでしょう。また、新人看護師が困っている場合には、実践の中心を成す判断力を強め、自信をもてるように導いてくれることでしょう。看護学生にとっては、考える力を自己トレーニングできる副読本として、看護力を育んでくれる書籍だと思います。

ぜひ、看護師の皆様手に取っていただきたい書物です。